

東京都杉並区的位置

人口：577,191 人 (R7.3.1現在)
世帯数：334,448 世帯 (R7.3.1現在)
面積：34.06 km²

- 東京23区の西端、武蔵野台地のほぼ中央に位置し、地形は全般的にみて平坦で、東部がやや低く、西部に向かうに従って次第に高くなっている。総面積は約34.06Km²と23区中8番目の広さを持つ。
- 荒川水系の一級河川である神田川・善福寺川・妙正寺川が区内を東西に流れており、かつては農業用水や飲料水にも利用されてきた。現在は潤いと安らぎのある水辺環境としての活用が期待されている。
- 東京23区の中でも住宅地としての土地利用の比率が最も高く、比較的自然に恵まれた住宅都市としての性格をもちながら発展してきた。



出典：「杉並区勢概要（令和5年版）」

出典：杉並区HP

出典：「杉並区勢概要（令和5年版）」

■杉並区の“みどり”の捉え方

- 令和3年10月に新たに策定された「杉並区基本構想」では、杉並区が目指すまちの姿として、「みどり豊かな 住まいのみやこ」を掲げている。

杉並区が目指すまちの姿

みどり豊かな 住まいのみやこ

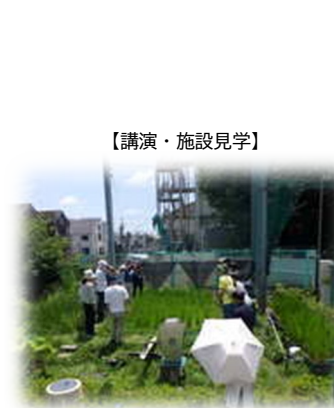
- 杉並区では植物に限らず、植物が育つための土地や水などの自然環境も“みどり”とすることを、「杉並区みどりの条例」において定義している。
- また、現在「杉並区みどりの基本計画」の改定を行っており、計画内にグリーンインフラの考え方や具体的な導入手法等についても取り入れていく必要がある。



【杉並区基本構想（R3.10）】

■グリーンインフラに関する取組み

- 令和6年5月には、グリーンインフラを活用した流域治水の取り組みを推進していくため、専門家との連携協定を締結し、講演会や実験、意見交換などの区民を交えた取り組みを行っている。



【講演・施設見学】



【浸透実験】



【聴くオフ・ミーティング】
(グリーンインフラから始める水害対策)

出典：杉並区HP

支援内容

グリーンインフラの視点を取り入れた、まちづくりにおける課題解決の取組みを展開していくための庁内横断的な方向性・体制構築支援を展開した。

杉並区の支援要望

グリーンインフラの多様な効果を整理し、まちづくりにおける課題解決の取組みを展開していくための方向性・体制構築の支援を実施

支援内容

重点

研修の企画・運営支援

グリーンインフラを活用した取組みの実施に向け、連携・推進体制を構築したい。そのためには、まずは部内でGIに関する研修を開催したい。

支援方針 1

グリーンインフラを、まちづくりにおける課題解決の取組みに展開していくための考え方、実現のための**連携・推進体制の構築支援**を行う。

講師等の派遣

庁内職員がGIの基礎的な知識や、まちづくり戦略につなげていくための考え方などの講義を研修内で開催したい。

期待される先導的な成果

⇒実際に庁内横断的な取組みに広げていくための課題と、機運醸成のための段階的なアプローチ方法のモデル構築として期待できる

重点

ロードマップの作成支援

現在策定中のみどりの基本計画及び景観計画に盛り込む、グリーンインフラの視点を取り入れたロードマップを作成したい。

支援方針 2

今後のグリーンインフラを活用した取組みの展開に向けた、**ロードマップの作成支援**を行う。

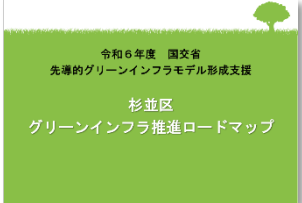
連携・推進体制の構築支援

- ◆研修会の企画・実施・とりまとめ
 - ✓ 研修会の実施（全2回）
 - ✓ 講演のコーディネート
 - ✓ 取組みのアイデアとロードマップの整理



ロードマップの作成支援

- ◆杉並区におけるグリーンインフラ活用の検討
 - ✓ 研修会の結果を踏まえたグリーンインフラ活用に向けた考え方の検討
 - ✓ 杉並区のグリーンインフラを活用した取組みアイデアの整理
 - ✓ グリーンインフラ導入ポテンシャルマップの作成
- ◆重点分野におけるロードマップの作成支援
 - ✓ 重点分野（環境教育・生物多様性）におけるロードマップの作成
 - ✓ 重点分野（環境教育・生物多様性）における事例整理
 - ✓ 事業推進に向けた課題等の整理



研修会の実施

○都市整備部研修として、杉並区都市整備部の若手・中堅職員を中心に約100名に参加いただいた。
○9つのまちづくりにおける課題をテーマに、グリーンインフラを活用した課題解決を検討する実践形式のワークショップを実施した。

【テーマ】グリーンインフラ×まちづくり戦略

日程		内容
第1回	2024年9月13日（金） 13：00～17：00	・講義①「杉並区の緑の現状」 ・講義②「グリーンインフラの推進」 ・講義③「論理的思考によるグリーンインフラの取組み検討」 ・ワークショップ「論理的思考によるグリーンインフラの取組み検討」
第2回	グループ1）2024年9月30日（月） グループ2）2024年10月1日（火） 9：30～12：00	・前回ワークショップ振り返り ・ワークショップ「ロードマップづくり」



第1回研修会

○グリーンインフラについて国土交通省高森課長補佐より、杉並区の緑の現状について杉並区都市整備部土木計画課よりご講演いただいた。
○グループワーク「論理的思考によるグリーンインフラの取組み検討」では、9つのまちづくりにおける課題をテーマに、現状と課題、取組みのアイデアをグループごとに出し合い、効果を体系的に整理した。

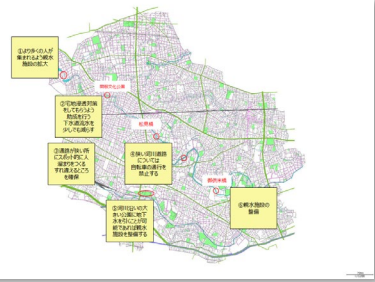
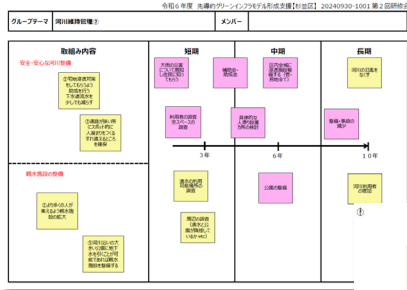
【テーマ】

- ① 空き家の活用
- ② 耐震化・不燃化
- ③ 再開発エリアの緑地等
- ④ 区施設設計
- ⑤ 道路整備、維持管理
- ⑥ 雨水流出抑制
- ⑦ 環境教育
- ⑧ 生物多様性
- ⑨ 河川維持管理

テーマ	現状や課題	取組みのアイデア
耐震化・不燃化	✓ 災害の危険性の高さ（建物が高くて密集、道路が狭い、公園が少ない） ✓ ランドマークがない	✓ 区有施設、民間施設に地区のランドマークとなる屋上公園整備 ✓ 雨水タンクの配布、耐震改修や雨水浸透性の助成
河川維持管理	✓ 災害等に備えた河川改修や、遊歩道のハード整備が必要 ✓ 従来の遊歩道（高い） ✓ 水と親しめる場所が少ない ✓ みどりの保全や環境形成が必要	✓ 道路幅を広げる ✓ 雨水施設・ランニングステーションの整備 ✓ 四季折々の景色を伝える ✓ 撮影しやすいスポットづくり、NPOでの情報発信
道路整備・維持管理	✓ 道路網の整備が進んでいない ✓ 安全性（幅が狭い、歩道幅狭小・老朽化） ✓ 自転車通行がしづらい ✓ 道路の使い方が工夫が必要（商業の活用）	✓ 透水性舗装や透水性舗装、浸透マスの導入と助成 ✓ 歩道幅の確保のための緑の活用 ✓ 環境を前提として導入 ✓ ワークスペースの確保
開放型公園 北東の緑地等	✓ 道路の安全性 ✓ 緑の保全・活用 ✓ 防災機能との連携 ✓ 浸水対策	✓ 学校グラウンドの芝生化と貯留槽設置、学校にたんぽぽつくる ✓ 緑地に土壌改良 ✓ 市民参加による緑地設計、区民の整備 ✓ 道路の拡張と透水性舗装
雨水流出抑制	✓ 補助の使いにくさ・申請のハードルの高さ ✓ 補助制度等の周知不足 ✓ 自分事への認識（雨の降らない、メリットがわかりにくい、個人で対策できる実感がない） ✓ 地域的な課題（敷地面積や土地の狭さ、狭い道路）	✓ 重点地域の指定と整備だけでなくメンテナンスを含む助成制度 ✓ 認定制度の導入（区のお墨付きステッカー・助成対象など） ✓ セットバックの間に透水性のよいアスファルトを使用する ✓ プランターの緑化の面積も算入 ✓ 土地の活用を助成する
環境教育	✓ 区民のみなさんに対する知識不足 ✓ みどりの豊かさの理解が不足 ✓ 事業者との連携	✓ 緑の教育の推進（子供向け・大人向け） ✓ 知る機会の提供や事業者、ボランティアへの支援 ✓ プレイパーク事業の推進
区施設設計	✓ 目標（雨水流出抑制対策量1.2~1.5倍）の周知不足 ✓ 補助金や補助金（補助の緑） ✓ 他のルールとの兼ね合い、工事の長さ	✓ 区民への広報 ✓ 屋上緑化や不燃化 ✓ 予算確保のため、計画の位置づけ、区内での認識を広める
空き家	✓ 権利者不明や権利者との意向の不一致 ✓ みどりの大規模な整備が必要 ✓ グリーンインフラ導入の初期費用コスト	✓ 区民の権利の整理と整理による誘導 ✓ 空き家賃借物の公開（登録制）、権利者と事業者のマッチング ✓ 空き家×フォトコンテスト、アート、マルシェ、区民農園 ✓ 緑地後継材の活用
生物多様性	✓ 民有地の緑地の活用と住民理解 ✓ 方向性や目標のわかりにくさ ✓ 緑地の狭い手帳	✓ パンフレット作成や、参加型調査や観察会、勉強会などの開催 ✓ 緑地の活用や助成金制度の創出 ✓ 緑地の整備、保全、希少種を呼び寄せる

第2回研修会

○第1回研修会での検討内容をもとに、取組みのアイデアを区内の具体の空間に落とし込むとともに、実現に向けて必要な工程や実施時期、役割分担を整理した。
○ワークショップでの検討結果は、「杉並区グリーンインフラ推進ロードマップ」に反映した。



ロードマップの作成支援

【位置づけ】

- 杉並区としてグリーンインフラの取組みを推進していくために、具体的な取組みの方向性やアイデアを示したものとして作成。
- 研修会での意見をもとに整理したものであり、今後、内容の具体化や実現性等を検討したうえで実施していくものとする。

【主な内容】

【目指すべき姿】

- 気候変動への対応や生物多様性の回復、雨水流出抑制などをはじめとする、社会的な課題・まちの課題解決に、グリーンインフラの視点からまちのみどりの活用を推進していくことで、杉並区が目指す“みどり豊かな住まいのみやこ”の実現に寄与。

【グリーンインフラ導入のポテンシャル】

- 研修会において検討した、グリーンインフラを活用したまちづくりにおける課題解決のアイデアを、グリーンインフラの効果とされる①防災・減災、②地域振興、③環境の3つに整理し、杉並区におけるグリーンインフラ導入のポテンシャルマップを作成。

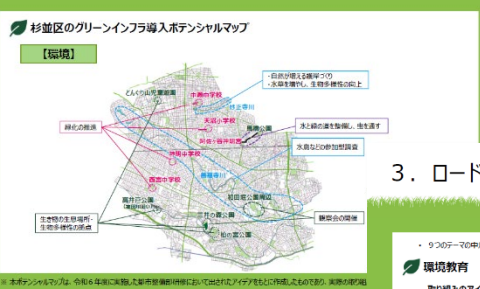
【ロードマップ】

- 研修会における9つのテーマの中から、「環境教育」と「生物多様性」を重要テーマに設定し、これまでの検討を踏まえた取組みの方向性や具体的なアイデアをロードマップとして整理。

【推進に向けて】

- 今後、杉並区においてグリーンインフラの取組みを展開していく中で重要となる、区内における連携および区民・事業者等との連携についての方向性等を整理。

2. グリーンインフラ導入のポテンシャル



杉並区のグリーンインフラ導入ポテンシャルマップ

【環境】

- 緑地の確保
- 雨水の貯留・浸透
- 防災・減災
- 環境教育
- 生物多様性の回復

3. ロードマップ

9つのテーマの中から、「環境教育」と「生物多様性」を重要テーマに設定し、これまでの検討を踏まえた取組みの方向性や具体的なアイデアをロードマップとして整理。

環境教育

取組みのアイデア

短期	中期	長期
緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理
緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理
緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理
緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理	緑地の確保に関する情報の収集・整理

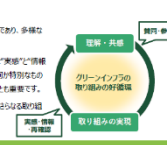
4. 推進に向けて

庁内連携の必要性

- グリーンインフラの導入は、行政だけでなく、区民・事業者などの協力が必要不可欠であり、多様な主体との連携が不可欠である。
- そのため、区内において、グリーンインフラについて「共通」の認識を醸成し、グリーンインフラの多機能性をそれぞれの特性が生かせる範囲に広げようとする。
- 「グリーンインフラ」をキーワードに、多様な部署が連携しながら区民のみなさんへ積極的に活用すること、まちの課題解決につながる「みどり豊かな住まいのみやこ」の実現を目指す。

区民・事業者との連携の必要性

- また、グリーンインフラの取組みは、行政だけでなく、区民・事業者などの協力が必要不可欠であり、多様な主体との連携が不可欠である。
- そのため、区内において、グリーンインフラについて「共通」の認識を醸成し、グリーンインフラの多機能性をそれぞれの特性が生かせる範囲に広げようとする。
- 「グリーンインフラ」をキーワードに、多様な部署が連携しながら区民のみなさんへ積極的に活用すること、まちの課題解決につながる「みどり豊かな住まいのみやこ」の実現を目指す。



本年度のモデル形成支援事業の成果と課題

<支援内容>

研修会の実施

ロードマップの作成支援

- <主な成果と今後の課題>
- 全2回の研修会を実施し、グリーンインフラの基礎知識や最新動向等について理解を深めるとともに、ワークショップにおいて、実践形式によるグリーンインフラの視点を取り入れた課題解決の検討を行った。
 - 参加者からは、これまで漠然と良いものとしてとらえていた「みどり」に対する解像度が上がった、早速各課での議論においてグリーンインフラの視点を取り入れられるようになった、研修で得た知識を政策企画プロセスに反映させる意識が芽生えた、などの声をいただいた。また、研修を通じて、所属以外の職員とのコミュニケーションのきっかけづくりにもつながった。
 - 今回は都市整備部職員を対象とした研修会の開催であったが、グリーンインフラの取組みを推進していくためには、全庁的にこのような機会をつくり、グリーンインフラの多機能性を広め、政策企画に活用していくことが必要。
 - グリーンインフラの取組みを推進していくための方向性や具体的なアイデアを整理したロードマップを作成した。研修会での検討成果をもとにポテンシャルマップを作成し、区内の空間に実際に落とし込むことでより具体的となり、現在改定中の「杉並区みどりの基本計画」に取り入れる要素の参考となった。
 - 取組みのアイデアを実現するための庁内の推進体制の構築、区民や事業者への理解促進や機運醸成などを引き続き行っていく必要がある。